

11月13日 東保育所において公開保育を実施！

東保育所では、北野先生を迎えての公開保育は、今回が初めてでした。日々つながっている遊びの様子を見ていただき、その環境や保育士の関わり等に対して具体的な助言、指導をいただきました。

クラスの年齢を問わず、子どもが好きな場所で好きな遊びを楽しめる環境を準備し、子どもの興味・関心を元に遊びを展開しようとしている様子を見てもらいました。また、この遊びは、この日だけでなく日常の姿のもので、日々変化してきていることもドキュメンテーションを通じて見ていただくこともできました。環境として、4、5歳児の各部屋には調べるコーナーが設置されており、子どもが不思議に感じたことや疑問に思ったことがすぐに調べられるようになっていました。

各クラスの振り返り場面では、子どもの思いをどう広げるか、何をピックアップするか、話し方、進め方等の具体的な助言もいただき、多くの学びがありました。公開保育を通じて、公開園だけでなく、参加者の皆さんにとっても、実り多い機会となったのではないのでしょうか？

参加保育園14園

- 岡田保育園
- さくら保育園
- タンポポハウス
- 平保育園
- なかすじ保育園
- 東山保育園
- ルンビニ保育園
- 八雲保育園
- やまもも保育園
- 中保育所
- 東保育所
- 東・南・西乳児保育所

子どもが創意工夫しているところ、違う遊びをしているところをよく見て、ほめる ほめる時に隣の子を巻き込んでほめることで友達との関係性をつなぐ

<3歳児 新聞紙あそび>

作ることによって終わってしまっていた制作遊び。作った物で遊んでほしいという保育士の思いから、今、子ども達が興味を持っているレンジャーごっこに着目し、担任がモデルになることで遊びの展開に期待する。

<北野先生>

◎元気に全身を使って遊んでいた。先生も新聞を体にまといダイナミックに動き、良いモデルになっていた。子ども達のイメージにつながる。

◎一方でモデルがありすぎたら、皆、同じようにパターン化され、イメージが広がりにくくなることも意識する。

◎模倣ができていて、遊べているなど感じたら、保育士は遊びからそとと抜けていく。人と違う遊びをしていたり、創意工夫をしているところを見つけてよくほめる。

◎子どもが、主体性や自分らしさを出せるためには、保育士自身が、予測をうらぎられることや新たな発見をうれしと思ったり、保育士の方向性をいろいろと決めないことが大事。

◎期待の大きさを伝えることは大切だが、子どもに伝わってきたなと思ったら、多弁すぎないことも大切。言葉中心で期待が強くと出ていると、子どもにそれが伝わってしまう。



<5歳児 おみせやさんごっこ / 畑作り>

絵本『どんぐり銀行』がきっかけとなって始まったおみせやさんごっこ。自然物をケーキの材料にみたくて、みんなで協力し合って大きなケーキ作りにも挑戦した。また、園庭ではスコップを持って数人のグループが畑づくりをしていた。

<北野先生>

◎ケーキ屋さんからレストランに展開し、狭い場所から広い場所へ移動したのもとても良いこと。保育士が、「遊びが、どんどんダイナミックに変わっていったらおもしろいな・・・」と期待を持つと、子どもたちが委縮をしないし遊びが豊かになる。

◎バラエティを豊かにしたり、創意工夫をもっと出そうと、保育士が堅くならないこと。

◎個に対する褒め言葉や発見に対して丁寧な関わり方をしていたが、ほめる時に隣にいる子も巻き込んでほめる。友達との関係性をつなぐ、というところを意識する。

【トラブルは、関係性を作るチャンス】～畑作り～

◎みんなが活動している場と近いときは、少し離れた場所で空間を作り、話を丁寧に聞く。当事者が、当事者意識を持てるように、保育士が2人の手をつなぎながら話す等する。

◎トラブルや誤解を解く時は、叱ったり問い詰めたりせず、泣いている子に泣かせてしまった子の横で丁寧に気持ちを聞く。気づくように促すことが大事。



<4歳児 地図づくり、 カブラで城づくり>

遠足で地図を見てのメダル探しをしたことがきっかけで、地図への興味が強まり、自分なりの地図を描くことを楽しんでいる。また、数人で遠足で見たお城をカブラで表現することを楽しんでいた。

<北野先生>

◎体験をもとに、城を作ったり地図を描いたり、イメージがよくできている。プロジェクト保育の醍醐味。

◎縦に作っていた城だけれど、今度は横にして…等、遊びに多様性や柔軟さがあった。

◎絵も、とてもダイナミックに描いていた。

☆絵を見る時のポイント☆

- ・みんな一緒に絵ではなく、個性が感じられるかどうか。
- ・この所はこだわって描いている、と感じられるような部分のある絵。



<話し合い、振り返り>

各クラスごとに集まり、今日の遊びのトピックスや子どもたちの思いを取り上げ、振り返る場面。

<北野先生>

◎話したい子が多いのは、友達との関係性や、伝えたい気持ちがたくさん育っている表れ。

◎子どもが発した言葉を受け止めた後、他者へもわかるように言い換えて終わってしまうのではなく、他者を巻き込みキャッチボールをする。

◎恥ずかしくて言えない子の代弁はしなくてもいい。保育士が全部話してしまうことで、その子の話したい気持ちが育つわけではない。

◎話を聞く態度や姿勢でない場合、今から聞くんだよという準備のようなものを入れることが必要。背中をピンとして、などと意図的な言葉かけをすることも必要。



この遊びだからこそ育つ力は何かを考える。保育士が言葉を話す時‘主語が誰か’を考える。

その環境、その人がどう機能するか…常にチームで話し合う。

～北野先生カンファレンスより～

<歌>

◎歌が発散にならないようにする。
4歳は、他者への気づきが出てくるので、
友達の声に気づかせていくことが大事。

◎歌でこそ楽しめること、育つ力を考える。
聞く力・声を合わせること・歌詞の理解・歌詞のイメージ等を意識して歌うようにする。

Q:子ども主体とは?どこまで子どもの思いを聞くのか?モデルは必要か?

A:◎何をさせるかさせないかは、基点が子どもにあっても、その中から保育士の教育的意図との関係で選択する。子どもがどんな目で見ていて、どんなリアクションをするかを見る。

◎特に幼い子どもには、モデルが必要。しかし、模倣ができて遊べているなど感じたら、保育士は引いていく。違う遊びをしている子を褒めて、あれもいい、これもいい、もっとこうしてみよう…という雰囲気、集団としてクラスで作っていく。自分とは違う物の見方や発想のある子に気付くことで自分も変わっていく。

Q:活動がねらいや目的になりがち…

A:楽しみながら何が育つのか、何が学ばれていくのかというところまで考えてねらいを設定する。この遊びだからこそ育つ力は何かを考える。

例えば…体をダイナミックに動かして遊ぶ→体を動かすから育つものがある。

歌を歌う→歌うということこそある発見や楽しみ方、学びを考える。人と合わせる、リズム感を楽しむなど…このような要素を意識する。

Q:振り返りの場で何をピックアップするのか?

A:共同でイメージできたり、感情の共有・発見・気づきの共有があったであろうと思われることを話し合いの場面で意図的に取りあげる。誰かの発見、何かがあった時、一緒にできた時などをピックアップする。

話し合いの場面で取り上げる子は、「この遊びだったら、この子は話したいと思うかもしれない」等と人間関係の領域や言葉の領域で気になる子になりがちだと思うが、

話す内容も意識することが大事。

保育士が言葉を話す時‘主語が誰か’を考える。「○○ちゃんが、△△してたんだよね。」「こんな風に思っていたんだね○○ちゃんは。」というふうに主語は子どもなのか自分なのか、と問うことが大事。

※保育士の感想や意見を言いつぎると、聞かない子が育っていく。聞かない習慣をつけ続けると聞かない子になっていく。手悪さする子、話に無関心な子は、逆に大人が育てているところがある。

Q:物の環境、人の環境がいかにあるべきか?

A:その環境、その人がどう機能するか…常にチームで話し合う。園は集団保育の場所である。例えば 特別支援保育士も担当の子にばかり目がいきがちであるが、その子のことを見ている他児に対しての関心を持ち、その立ち位置でいること。そこで口や手を出すことが、どう集団の活動と関わるのか…というところまで意識する。



ドキュメンテーション報告:八雲保育園 平保育園 南乳児保育所より

午後には、3園より報告を受け、北野先生にご指導いただきました。ドキュメンテーションを見ながら、具体的な保育にかかわる質問や課題等が参加者の皆さんから出され、今までとはまた違った形の研修となりました。参加者の皆さん自身が主体的に発言し、意見交換できるようにと北野先生からもご指導いただきました。

遊びの始まり=きっかけを書くことは大事

◎子どもの興味・関心からスタートしたことを伝えるには、遊びの始まり=きっかけを書くことは大事。

◎保育士が見つけた、ほめた、他の子にも伝えた等の保育士の役割に当たる部分のコメントがあれば、もっと良い。

◎1人の子の発見が、他の子達の試行錯誤にかかわってくる。(個から集団へ)

◎子ども達のやりたいことが、トピックスとして選ばれていけば、どんどん遊び込むようになる。

◎支援の必要な子のことを多くの保護者にも広く伝えてほしい。どう発信するかは難しい

が、そのような子どもと共に育つ環境は、すべての子ども達の多様な育ちに

つながる。(かかわり方、接し方、多様性に対する寛容さにつながる)

◎支援の必要な子にも、集団の中の一人として遊んだことで多様な影響がある。

◎「できる」「できた」という言葉には気を付ける。そこを気にする保護者が多い。

「できる、できない」のみに関心を持つと、主体性を育てる妨げとなるので、保護者への発信は意識する。

◎製作は結果の‘物’よりも、プロセスでの気持ちの満足感の方が大事。試行錯

誤したり、工夫するプロセスが、思考力や技巧性を育てる。

×本物に近い物を作ることができた
○本物を思い浮かべるイメージの力がついた。

○工夫した時に、自分らしく○○をした…等の表現をする。

◎一般論的な表現を工夫する。

「新しい言葉を覚える」→「新しい言葉がみられた」「新しい表現がみられた」

◎言葉が増えることに意味があるというより、体験を通して言葉を増やしていると表現する。

保育に入る前に大切にしたいこと…自分の視点の意識化、環境、振り返り場面(子ども同士の共有)

Q:ドキュメンテーションでたくさん伝えたけれど、見やすさで言うなら…もう少し内容を絞った方がいいのか?考察を書くのが難しい…

A:1日でたくさん見るのは大変だが、順番が増えてくると読みやすいかもしれない。焦点を絞り、表現の仕方を考えて、見やすいように工夫してみる。何が始まるんだろう、という導入は大事。同僚の保育士や、保育を知らない人に読んでもらい、わかるかどうか。

A:考察は、簡単に箇条書きにしすぎても、書きすぎてもわかりにくい。「写真にある

○○の場面では…○○と△△のように」等、具体例を入れて書くとわかりやすい。

Q:遊びが停滞している…どう関わるのか迷っている。

<参加者より>

◎毎日遊びが盛り上がっているわけではない。色々な日がある。してほしいと思う子には、保育士がモデルになって示している。

◎保育士同士相談しあって遊びの設定をしている。明日は子どもたちが何を見つけるかな?と楽しみにしている。

◎振り返りの場で、保育士が明日の遊びに

ついて黒板に書いたり、年長児が他の子に発信したりしている。

<北野先生より>

保育に悩むことは大切。保育をする前に大切なことが3つある。

☆子どもが来る前に、何を見ようかなと自分の視点を意識化しておく。「～かもしれない」とイメージを持つ。

☆環境、教材を考える。

☆振り返りの場面で、意図的に子どものことを取りあげ、子ども同士が共有するようにする。